

会議録（1）

会議の名称	令和7年度 第2回入間市放課後子ども教室事業運営協議会
開催日時	令和8年3月12日（木） 午前 10時00分開会 午前 12時10分閉会
開催場所	産業文化センター 第2集会室A
議長氏名	村野 裕子
出席委員(者)氏名	早瀬 一恵 内田 憲二 石川 和子 三枝 陽子 晝間 達夫 小林 知恵 吉川 哲夫 村野 裕子 関谷 敦子 山増 智子
欠席委員(者)氏名	福地 雅志 須田 健一郎 増山 宗隆 梅 裕晶 加藤 喜代江
説明者の氏名職	5. 報告事項 (1) 令和7年度放課後子ども教室年間報告について 田畑主事補 (2) 放課後子ども教室及び運営協議会のあり方について 小野主査
会議次第	(入間市放課後子ども教室事業運営協議会は、条例・要綱に基づき公開) 第2回放課後子ども教室事業運営協議会 1 開 会 2 会長あいさつ 3 報告事項 令和7年度放課後子ども教室年間報告について 4 放課後子ども教室及び運営協議会のあり方について 5 その他 朝の小1の壁について 6 閉 会
傍聴者数	0人
配布資料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	黒木こども支援部部長 豊泉こども支援部次長 宮岡青少年課長 福島青少年課主幹 小野青少年課主査 田畑青少年課主事補 三浦社会教育指導員 岩田こども政策室長 根本こども政策室主幹 放課後子ども教室コーディネーター 馬路清美 相澤久美子、藤井誠、生田由紀子、安藤良子、池田裕子
会議録作成方法	要点筆記

会議録（2）

議事の概要（経過）・決定事項	
第2回入間市放課後子ども教室事業運営協議会	
1	開 会（小野主査）
2	会長あいさつ（村野会長）
3	報告事項 令和7年度放課後子ども教室年間報告について（田畑主事補）
4	放課後子ども教室及び運営協議会のあり方について（小野主査）
5	その他 朝の小1の壁について（岩田室長）
6	閉 会（小野主査）

会議録（3）

発言者	発言内容
青少年課	令和7年度放課後子ども教室年間報告について説明 配布資料P1～P2 資料1、2
晝間委員	定員が毎回減っていることに対する対策は。
青少年課	落選者が出ない定員をコーディネーターと調整して設けている。
会長(議長)	定員を決める時にコーディネーターがここをポイントで決めているとか困っていることはないか。
相澤(コーディネーター)	教室の大きさは関係している。広い教室もあれば、例えば高倉小学校は音楽室を借用していて、大きなグランドピアノある。そうすると使用できるスペースも限られ、募集人数にも影響する。
藤井(コーディネーター)	コロナの関係があり、人数を少なくした経緯もある。サポーターが大体3人ぐらいでコーディネーターが1人。4人で運営している。いまは15名ぐらい受け入れていて、前は20名だった。来年度は18名にするが定員も学校によって差がある。
吉川委員	オンライン決済の市が支払う手数料の内訳を教えてください。
青少年課	システムとしてLINEを使って登録をしていただいている。企画課のデジタル行政推進室で予算を持っている。その予算の中で1件の決済につき数円、市の負担がある状況。件数の何パーセントかを月額いくらという形。
青少年課	放課後子ども教室及び運営協議会のあり方について説明 配布資料P3～P7 資料3
会長(議長)	現状が素晴らしいため、さらにステップアップしたいという話。資料の3番の提言書を作っていた時代からいた人はよく分かっていると思うが、令和3年にこの提言をみんなで話し合い提出した。入間市の放課後子ども教室は素晴らしいが、もっとこんな風になったら、こんな課題を解決できたらいいという提言をした。それが令和3年の出来事で、4年寝かせた形となったが、いま改めて提案していただいた。文章としては資料3を読むと事務局が説明した内容が入っている。

	<p>いまの事務局からの提案でさらにステップアップしていく時に現状のいいところは絶対になくしたくない。</p>
山増委員	<p>講師をしているが、学校の中でわくドキで体験したことが活かされているというシーンがあるのか。モノづくりのアイデアが出てくるとか、体験したことがどう日々の生活に活かされているか評価はしているか。</p>
青少年課	<p>小学生がハサミやカッターを使ってダンボールを切ることやガムテープを切ることによって工作をすることがある。授業ではそんなに時間が取れず、安全な道具を使わせることは多いと思う。スタッフがきちんとやり方や怪我をしないよう注意している。もちろん学校でもやるが、わくドキでは割と時間をかけてやるので参加していない子、参加している子の中で差が出ていると感じる。よく参加している子は道具の使い方も慣れている。学校は教育課程の中で授業日数が厳格に位置づけられている。この単元は3時間なら3時間でできてもできなくても進める。そういう意味でわくドキは相当自由度が高いと感じる。</p>
相澤(コーディネーター)	<p>プログラムの中でガムテープを使うが、切れない子がいる。すぐハサミで切ろうとするので、まずガムテープの切り方を教える。プログラムが終わる頃には切れなかった子も切れるようになっている。紐もが結べない子が圧倒的に多いのであえて紐をひたすら結んでミサンガを作るような紐結びに特化したプログラムも用意している。夏休みの工作もわくドキで取り組んだことをもとに工作に取り組んでいる子もあり、保護者からお礼の言葉をいただいたこともある。こどもたちに体験の機会やアイデアを与える場にわくドキはなっている。</p>
内田委員	<p>いままでに放課後子ども教室の取り組みとしてこどもたちの意見を取り入れた実績はあるのか。</p>
会長(議長)	<p>こどもたちからの声を受けてできたプログラムはあるか。</p>
青少年課	<p>過去にこどもたちのやりたいものをアンケート調査したことがある。</p>
池田(コーディネーター)	<p>こんなことやってみたいとか今まで楽しかったことを自分の参考とするためにもこどもたちに聞いている。こどもたちは体育館で遊ぶのが好きで人気があるのは紙コップを千個使って自由に遊ぶプログラム。ひたすら組み立てていく子、自分で間取りを作る子、何かを作るのではなく全部繋げて縄飛びみたいに遊んでみる子、自由な発想が生まれる遊びは人気がある。Tボールでチーム戦をしたいというのもリクエストが多い。みんなのリクエストをプログラムにも取り入れている。</p>

馬路(コーディネーター)	意見を言えるのは参加している子。スケジュール見ると分かるようにこどもの声は反映するのに時間が必要。コーディネーターのスケジュールからすると次の月に反映とかになり、すぐというわけにはいかない。それも参加した子のものだけになるので、そればかりに引っ張られるものでもない。経験値が上がるためのプログラムを作っていく時に、特に1年生2年生は最初に案内だけ見てわくドキに行ってみたいとなかなかならない。興味が出るようプログラムの名前に工夫を加えたりはしているが、まだやったことがない子が参加できることももちろん必要。全ての子にと言うと今まで参加した子の人気が高いからやるというのはすごく難しい。最初に試しにやってみて、2回目にみんなの希望を足すというプログラムの作り方はするが、最初の投げかけでこどもたちに人気があると意見聞くというのはこのスケジュールの中では難しいと感じる。
内田委員	来ている子に聞くのは簡単。他の子たちからは難しい。親がいないから預けたいというのが最初できた頃の話。学童保育じゃないが、週に1回預ける時間がある。それで親は申し込みをする。
相澤(コーディネーター)	アンケートの回答を以前見たが、自分で何かひらめいてこれがやりたいと答えられる子はほとんどいない。結局は過去にやったプログラムの中で楽しかったものでこどもたちが自分で独創的にということはまずない。お料理をやってみたいというものも意見として出るが、開催場所の制約によってできない。
藤井(コーディネーター)	学期が始まる前にこどもと何かやってみたいものがあるか話をする。独創的なものはないが、スライムを作りたいとか具体的な名前は言う。アンケートを取っても同じでスライムは人気。繰り返してこどものレベルの中でやりたいことというのは大体決まっている。人気のあるものも決まっている。オリジナリティを出して自分だけのものを作ろうということで、樹脂粘土でキーホルダーを年に1度作る。1つのキーホルダーでも色違いができる。キーホルダーではなくて紐をつける。ある程度部品を用意するとこどもたちは自分の考え方でいろんなものを作る。自由な発想や独創性、認知と非認知で言えば非認知の能力も伸ばすこともコーディネーターも考えてやった方がいいとは思う。
会長(議長)	コーディネーターがこどもたちの声を聞きながら事業をしていることがよくわかったが、全てのこどもの意見を聞いているわけではないので、放課後子ども教室に来ている以外のこども、全てのこどもにとってどんなものがあればいいかという視点でご意見を伺いたい。放課後子ども教室に来ているこどもは満足している。それがリピーター率の高さに現れている。それはコーディネーターの努力の賜物。来ていないこども。本当は全てのこどもに聞かないといけないことをどのように

副会長	<p>したら実現できるのかご意見伺いたい。</p> <p>光華小学校という昭島市にある公立小学校で外遊びのような自由遊び、冒険あそび場プレーパークのような放課後子ども教室を視察に行った。放課後子ども教室が始まった時に家庭による格差、体験格差を生まない工夫ということで入間市はコーディネーターが色々な体験、経験をプログラム制の形でアレンジして、応募した子が参加する形で始めた。色々な子が体験できることが目的ではあるが、実は教育熱心な親が放課子ども教室に申し込み、終了後に次の習い事に行くような現象もある。本当に体験格差、体験格差に対して助けになっているのかは今後も注意していかなくてはいけない。人数の問題も場所が決まっています、学校の余裕教室、体育館を使っている状況ではあるが、学校の事情でありそれにより参加人数が限定されてしまう。もう少し人数的な面で自由に、遊び場、遊ぶ仲間、時間というのを1番実現可能なのは安全面等も考慮して、校内ではないかと思っている。親の働きかけにこどもが意思を表明してそれを受け止めてくれるチャンスや、もう少し広げられたこどもが自由に遊べる場があるといいと思う。昭島市の光華小学校は校庭なので人数制限も緩く、教室内に入れる人数ということではなく校庭で遊べる時間が決まっているだけ。体験でガムテープが切れる、切れないプラスもっと体を使ってもう少し広いところで体験ができる。昭島市の光華小学校ではプールでメダカを飼っているが、こどもがここで飼いたいからどういう風にしたらいかを先生と話して、こどもたちがこうしようこうしたいと大人と交渉して決めていく過程を学校の校庭の中で実現している。入間市のプログラム方式という他市にはない素晴らしいやり方の1つを継続しつつ、可能であれば体を使った、心を使った、人数制限も緩い放課後の居場所、今、社会で求められているこどもの居場所が作れたらいいと思う。</p>
会長(議長)	令和8年度2学期に自由な居場所をやってみるといふことでよろしいか。
青少年課	調整も必要なので2学期にどこかできる学校で少しやってみようというのが事務局の案。問題がなければそのように進めさせていただきます。
馬路(コーディネーター)	<p>仏子小学校と西武小学校を対象に日本財団の助成を受けて居場所として、放課後子ども教室とは別にこどもたちが自分たちで通ってくるという居場所を始めて4年目になる。その中で時間、空間、仲間が大切なのは現場でも感じている。こどもたちに時間、空間、仲間が必要ということを目標にするならば、そういうことを考えていく地域の人が必要だと思うが、時間もかかるのではないかと思います。一朝一夕にそういう場とはならない。4年間やってきた中で少しずつこどもたちが安心できる場になっていく。火曜・金曜だけが、1年生から6年生まで50人</p>

来る。6年生はあと半月で卒業したら来られないので新しい子と来ている。仲間同士で遊んだり、1年生の面倒を見たり、それは積み重ねで成り立っていくとを感じる。だから、募集制の放課後子ども教室のいいところと組み合わせるのは難しいと思う。居場所なのか、体験なのかという問題が前回からの課題だと思うが、両方ないといけないと思う。片方をやめて、この方向にというのは子どもたちにとってもったいない。ガムテープを切るとか何か道具を使うということが必要な場所として放課後子ども教室は残していく。子どもたちが自由に居場所に来られる。居場所に来て安心して何をするわけではない。プログラムを作ったら誰もやらない。近隣の人に迷惑をかけたならボール遊びができなくなるとか話し合いながらその場を守っていく。ゴミだらけになったら誰が片付けるとかみんなの意識を変えながらその場を作っていくというのが居場所の役割だと思っている。そこに地域の人が関わるというのはすごく大切。放課後子ども教室のいいところであるプログラムを変えずに両方作るという考え方で行った方がいいと思う。体験格差と言って、保護者の皆さんを煽っているのではないか、体験格差という言葉に違和感もある。親と先生としか話したことない子が、おばちゃんと話すのも貴重な体験、そういうことも体験、大きくやっていくことが必要。1つに集約するのではなく、色々なところに子どもたちが経験する場があることが必要だと思う。

副会長

放課後子ども教室の事業を残したまま考えるということではよろしいか。

青少年課

いまの放課後子ども教室をさらに良くするためにご意見いただきたい。

藤井(コーディネーター)

いまの放課後子ども教室は当然継続すべきと思うが、所沢市でもあるようにコミュニティスクール化した時、基本的に放課後子ども教室だけでやることに対しては、ある程度限度がある。コミュニティスクールのようにどこが主体ということではないが、学校応援団も必要だし、コミュニティスクール化してやっていけば例えば東日本大震災から15年となったが、震災の訓練も地域ごとにやれるような方向性になればいいと思う。

吉川委員

コミュニティスクール、学校運営協議会があって、前は学校ごとだったのが、地区ごとで学校運営協議会を作っている。学校の運営について地域の方の意見を反映して運営していくという方法でやっている。年3回各学校に行き、学校の授業を見て、その後テーマに沿って協議する。もう1つコミュニティスクールに地域学校協働活動。要は、コーディネーターが地域の団体と連携して学校のお手伝いをする組織があるが全々進んでいない。進んでないというか難しい。いま地域の中で色々な団体があるが、高齢化とかでボランティアしてくれる人を見つけるのが本当に大変。そういった人と協力してかないとできないことなので、そこを

	どうやっていくのがいいのかというのは思う部分ではある。
相澤(コーディネーター)	コミュニティスクールは、具体的になにをやるのか。
藤井(コーディネーター)	基本的には学校、PTA、わくドキ、学童そういうもの含めていろんなことをやった方がいいという考え方で、学校が主体になると思う。
馬路(コーディネーター)	具体的に動いている学校もあれば、そうでない学校もあって地域ごと。充て職と言ってはいけないけれど。肩書きのある人が入っている。 学校運営協議会が地域ごとに地域の方と話し合おうと言ってはいるが、西武小にも仏子小にも入っていない。地域で居場所をやっていることは教頭先生に言うしかない。コミュニティスクールに入れてくださいと言ったが、西武中学校のコミュニティスクールなので西武中学校に権利があるとと言われて、話し合いの場に声がかからない。コーディネーターとして放課後子ども教室やっていますと言っても。これから具体的にやりたい部分ではあるが。
会長(議長)	全部の中学校区にある。詳しく次回の会議で説明してもらいたい。地域と学校と一緒にいろんなことをやろうという構想。例えば何かやるときに地域のこの団体に手伝ってもらおうというコーディネートをする方がいて、それがうまくいくかどうかはわからない。
青少年課	コーディネーターは、全体会もあるのでそこで改めて説明させていただく。教育委員会と青少年課と連携した方が今後いい気もするので、調整を図っていく。
会長(議長)	今後の協議会にコーディネーターに加わってもらうこと、放課後子ども教室には協議会が必要で、こどもの学校以外の時間を考える会議体も必要ではないかと事務局からの説明があった。ご意見、質問はあるか。
相澤(コーディネーター)	現場を見たことがないという方が大半だったので、1度でいいから現場を見ていただきたい。
石川委員	一般の人も自由に行って見学ができるものなのか。
副会長	そういった意見はあって、今年度は2回しかない会議で募集とかはなかったが、1学期のうちに見学に行きたい人を募集した時もある。行きたいというご意見があれば、事務局で調整して過去には見学を受け入れたこともある。

青少年課	青少年課で見学の場を設けていなかったのので、改めて周知して、お近くの放課後子ども教室を見学できるよう進める。機会を設けなかったことにつきましては大変申し訳なかった。令和8年度1学期、今学期は残り少ないので改めて令和8年度に入ったらご案内をさせていただく。
内田委員	同じ学校の校長先生が委員として再委任されるのはおかしいのではないかと。同じ人では、それぞれ学校の事情があるからやはり2年ごと変わった方がいいのではないかと。
副会長	先生は過去にはずっと変わっていて、自分の意見だけを言うだけではなく校長会でそれを議題に出して、校長会でこんな話が出ましたとここに出席している先生が意見として出している。
会長(議長)	どの校長先生が来てもいろんな校長先生の意見を持って来るとは思う。
青少年課	学校の校長先生の推薦は小学校の校長会の中で充て職というか順番で決められているもので、うちの方からこの方をとすることはできない。
内田委員	順番でも構わないが、2期続くというのは時代も変わる。地域によって入間市もそんなに広い地域ではないが6地区ある。それぞれに学校の事情があると思う。
青少年課	校長会にこういうご意見がありましたということでお伝えする。
馬路(コーディネーター)	協議会のおよその構想は地域ごとに進めたらどうかとあったが、青少年課の関わり方が見えない。学校コーディネーターとしては、学校の場所を借りている立場で、何かあったら青少年課が学校との間に入ってはいる。今後はどうなっていくのか、どんな風に考えているのか。コーディネーターの資質でいま運営されていると思うが、コーディネーターが揃っての学習会の機会がない。こどもたちの現場を考えて学習することがないので、バラバラになっていくことを懸念している。何をを目指しているのか、経験値を重ねていくための放課後子ども教室とか、仲間、空間、時間というのでは大雑把すぎる。バラバラになる危険はないのかなと懸念している。あそびあーととしては毎年2、3回講演会を開いたり、勉強会をしたり、こどもの現状、SNSの効果や生繁AIについてどういう流れなのかこども家庭庁の話も聞いている。メンバーが講師だったりコーディネーターだったりする。学習はしているので何か言われたら、現状こうと受け答えができるように日々している。バラバラになっていくともったいない。学習することがあるとこういうことだと一緒に語れる。共有もできる。こどもに対しても共有ができる。コーデ

青少年課	<p>ィネーター会議やスタッフ会議に出るとシステムの方にどうしても走ってしまうと感じる。20人ぐらいの自分の目の前にいるこども以外の少し広い目を見たこどもの現状はあまり話題になってこない。各校の協議会にするとバラバラになる懸念がある。その辺り青少年課にビジョンを持ってこれが放課後子ども教室というものを持っていただきたい。そういう形でコーディネーターを繋いでいって欲しい。</p>
会長(議長)	<p>全体会もあるので、本日のお話も共有させていただく。市としてもみなさまのご意見をいただきながら市のビジョンを作っていく。青少年課の立ち位置としてはいまずぐにコミュニティスクールと連携して地域ごとに運営協議会を作るのではなく、軌道に乗るまでは現状通りとして進めていく。1歩先に進めていくことは想定しているが、現状はまだもう少しお時間いただきたい。コーディネーターやサポーター含め、共通認識を持って放課後子ども教室を作っていく考えである。</p>
小林委員	<p>協議会をしている私たちにも学びは大事だと思っている。みんなで学べるような機会を是非作っていただけたらと思う。</p>
三枝委員	<p>放課後のあり方を話し合う機会は、課題があるこどもたちが多くいて、遊びに行けない、塾で習い事が多くて放課後も夜寝る前まで色々なことをやっている子たちの話を聞く。説明の中であった3つの間はいまこどもたちに自然とは与えられないものではないかと思う。大人が用意してこどもたちにゆとりのある時間、仲間、その中から生まれるものを自分たちで選んで作っていく時間が必要だと思う。その視野を皆さんで話し合っどうしていか考える時間は必要だと思う。</p>
安藤(コーディネーター)	<p>放課後子ども教室に関しては花に関する依頼をコーディネーターからいただいている。狭い部分で関わっている。今後はもう少し広く視野を広げてこどもたちが主体的に決定できる放課後となればと思う。</p>
安藤(コーディネーター)	<p>豊岡小の現状はこどもたちが放課後に来る時間がまちまちであるので、ある程度自由な時間がある。低学年の子がほとんどだが、部屋にあるものでこれは使って遊んでもいいよというコーナーで棚の中に閉まってあるものを使って色々遊んでいる。例えば輪投げ、新聞紙で作った輪と輪を入れる台が置いてあるが、普通輪投げで遊ぶところ全然違った遊びが始まったりもする。いま木曜日に男性ボランティアが1人結構来てくれる機会が多い。男の子にとって一緒に遊んでくれるお兄さんというか、体を使った遊びで、楽しみがすごくあるようである。学校の自由な時間の中で色々自分の好きなことができる時間ができるといいと思う。ささやかな時間ではあるが、こどもたちの遊びの発見は私たちにとっても驚</p>

	<p>くような機会がある。色んな工作とかプログラムに取り組むが、3学期にこどもに何が楽しかったか、やってみたいがあるかを聞いて来年度の1学期のプログラムを組んでいる。そういうことからこどもたちの夢とかやりたいが増えてくればいいと思い取り組んでいる。</p>
生田(コーディネーター)	<p>藤沢北小ではこちらから提案したプログラムをやる形が多い。その中でもこどもたちが考えることを取り入れるようにしている。例えばモルックをやった時に高学年の子が3人いて、グループを3つ作るのに自分たちがリーダーやると言ってメンバーも自分たちで学年のことを考えて、この子とこの子はここにと全部3人で考えてくれて始めた。役割分担も自分たちで考えて、そういうのを見た時に成長したなと感じた。高学年の3人がいたから今日のわくドキがうまくいったと思った時があり、それが引き継がれていけばいいと思う。低学年が多いので、高学年の子を見て育ててほしいと思う。</p>
早瀬委員	<p>わくドキにこどもが参加したことがない。参加したことがない理由もいま2年生で、1年生の時わくドキが人気で応募しても入れないという噂が広がって、周りでもどうせ入れないからうちは応募しないという方が多かった。今回落選した子がいないことを初めて聞いたので広めたいと思う。今年度落選はなかったというお知らせを保護者に周知すると保護者も前向きに検討する要素になるかと思う。</p>
会長(議長)	<p>放課後子ども教室のことは今後も話し合っていくことは当たり前のこととして、運営協議会のあり方が広まることについて皆さん同意していただくということでもよろしいか。放課後子ども教室のことだけでなく、放課後のこどもたち全体のことをメンバーが変わるのかもしれないし名前も変わるのかもしれないが、この会議体で話し合っていく方向性はよろしいかと思うがいかがか。</p>
一同	<p>拍手にて賛成</p>
青少年課	<p>自由な遊び場の部分はいかがか。</p>
会長(議長)	<p>反対意見はないが色々な意見を出した方がいいと思う。準備は進めていただいて、来年度の6月頃運営協議会を予定してそこで詳細を決めていくこととする。</p>
こども政策室	<p>その他・朝の小1の壁について説明</p>
早瀬委員	<p>周りでは朝、みなさん時短とかで調整されていて、こどもより先に出る方は意外</p>

	と少ないと聞いている。いまこの現状を見て少し驚いたのが正直な感想である。
会長(議長)	困っている人が身近にいる、ご自身の経験、こんなものがあればなどのご意見を。
副会長	朝の時間のファミリーサポートセンターの個別利用も可能だと思うが、やっても人数が少ないという話か。
こども政策室	ファミリーサポートセンターに実態を確認したところ、年間フルで利用している人が1人、部分的に利用している人が1人でファミリーサポートセンターを実際に使っている人は朝の時間は2人。ファミリーサポートセンターは利用者と支援者のマッチングもある。マッチングしていないケースも事務局に確認したが、マッチングでダメという例はいまのところない。勤務先でうまく調整を取れているとかご身内、ご近所と協力していまのところそれほど表立って問題が出ていないものと思われる。
石川委員	ファミリーサポートとしてお子さんを見たが、うちに置いて行った時間から通学班に行くまでの時間は15分ぐらい。朝は本当に短い時間で疑問に思っていた。
会長(議長)	登校班の集合時間の15分前に出勤しなければならない方が相談に来たことがあり、ファミリーサポートを紹介したが、ファミリーサポートは嫌ということで、15分でも誰か先に学校に行けるとか近くに少し見てくれる人とかいたらいいという声はある。困っている人がゼロではないが、こういう方法がというものはない。県で話題が出た時、今年度試しにやるところがある。来年度も予算取ったという時に集まった人の中に居場所がそういうところも担ってくれないかという話があった。居場所にそこまで求めるのかという意見も出ていた。市民の力で運営するボランティア的なものに朝の時間まで県は任せようとしているのかという意見もあった。県の担当者も全部学校がやっていると説明をしていたが、現在取り組んでいる4市は学校が会場でどなたがその時間を担っているのか。
こども政策室	4市の場所は補助金の関係もあり、学校の敷地内か隣接している場所。志木市は隣接している公民館でやっている。残りは学童の場所を借りて。朝の短い時間なのでシルバーに頼んで見守りに入ってもらう例が1番多い。志木市も人はシルバーを使っている。
小林委員	ご身内の方が登校班まで連れて来てくれている子を知っているが、ご身内の方も年齢のこともあり、いつまで続けられるかわからないという話も聞いたことがある。

副会長	3年生か4年生ぐらいになれば。
会長(議長)	学年にもよる。何か特性があるとか。1人で置いておけないとか個々によって違う。ご身内がない方もいる。近くどころかどこにもいなくて誰にも頼れない。色々な事情がありなかなか難しいという方もいる。
副会長	制度を作るほど需要がないということか。
こども政策室	いまのところそう考えている。色々資料を集めて研究する必要がある。近隣市の情報も聞いてみたがいまのところ様子見。先進的に取り組んでいる4市が1年間終わった段階での状況と今後の動向は確認する必要があるという考え。
会長(議長)	本当はこういうのこそ地域力で、少しおばちゃん15分見ているよ、ここで一緒に待っているよ、という関係性が地域にあるのが1番という気がする。学校コーディネーターの腕の見せどころ。地域の人をいっぱい知っていて、あそこのおじちゃんこの時間体操しているからそこに一緒にいたらなど。
副会長	学校説明会の時に集まる人で相談できる場所が設けられるとか、個別対応で、全体としてこういう制度用意しましたということではなく、秋の就学相談の時に個別に相談できるといいと思う。
吉川委員	そこは民生委員か。
会長(議長)	民生委員もいる。制度がなくても地域力でどうにかなるのでは。そうやって成長した方が子どもにとってもいいと思う。
副会長	以上をもちまして、「令和7年度第2回入間市放課後子ども教室事業運営協議会」を閉会とさせていただきます。長時間に渡り、ご協議いただき、大変ありがとうございました。

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 8 年 3 月 30 日

議長の署名 村野 裕子